

No. 1182

企業 zoom up

株式会社
新興技術研究所

自宅でわかる大地震の前兆

本日、9月1日は防災の日。日本では数多くの自然災害が発生するが、特に地震による被害が多い。地震の正確な予知は不可能とされているが、この難しい分野で果敢に挑戦するのが、今回紹介する(株)新興技術研究所だ。

実は当社の本業は生産自動化システム。昨今、働き方改革や人手不足の状況下に加えて、コロナ感染拡大防止の観点からも省力化・自動化のニーズは高まっているが、当社は1963年の設立以来、50年以上にわたって様々な生産自動化の難題を解決してきた。そのため、蓄積されたノウハウは非常に豊富だ。地震予知に携わり始めたのが、1995年1月。阪神淡路大震災直後の当社主催の異業種交流会で出た議題「地震予知」について、その重要性を認識し、畑違いでありながら調査・研究を開始した。

「地震予知」は緊急地震速報と何が違うのか。緊急地震速報は既に大きな地震が起きていて、弱い横揺れが来たことを感知してからその後に来る強い揺れを短時間に計算して警戒を出す。そのため、揺れが来るまで数秒から十数秒しかなく、また、直下型には役に立たない。一方、電磁波による地震予知では中規模地震(M4、M5クラス)でも数週間前から、M6以上の大地震では数カ月前から異常なデータを前兆として感知できる。

阪神淡路大震災当時、阪神高速を運転していた多くの運転手から「ザーというノイズでAMラジオが聞こえなかった、その後に地震が来た」という証言がたくさんあったという。これを地震の前兆の電磁波ノイズと考えて、電磁波だけをとるラジオ=逆ラジオを開発し、地震予知と会員向け情報発信サービス『くるかも』の提供を始めた。

逆ラジオの特長だが、365日、24時間の連続観測で、普通のラジオ周波数帯でノイズだけを自動分離検出し、検出したノイズは時刻と数を全て自動記録する。また、一般家庭内にも自由に設置できる、パソコンでいつでも大地震発生の可能性がわかるなど、使いやすさの面でほかに例をみない。

実績としては、2012年4月29日の千葉北西部地震(M5.8)において、千葉・市川観測点の異常ノイズを中心に分析・予知し、見事的中。当日朝に会

熊谷社長のモットーは「自分がいなくても回る組織をつくる」



員へメールで情報提供をしていたため、事前に警戒を促すことができ、会員からも大変感謝された。また、東日本大震災については、2010年12月から翌2011年3月までに13回、東北で大きな地震の予兆が出ていると会員へメールしていた。しかし、大きな異常データが長期に続いたため、その間に起きるM4、M5などの中規模の対応地震を探してしまったり、2日前の3月9日に起きたM7.2を「これが対応地震だ」と思ってしまったりと、必ずしも会員に上手く伝えられたわけではなかった。

これらを反省点として、日々改良・改善を重ね、2019年6月より従来の『くるかも』に替わる新たな地震予知メール配信サービスの『ゆれくるん』(<https://yurekurun.com/>)の提供を開始。実際に大手企業の総務部や技術部長、防災担当などからの問い合わせが増えているという。

ところで、なぜ民間でここまで地震予知が進んでいるのに、公共にはあまり行き届いていないのだろうか。「日本は地震学者に地震予知を任せるが、地震学者は直接地下の動きを取ろうと考え、電磁波による予知を断固として認めない。その結果、過去に約6000億円が投下されたが一度も成功していないのが実情」(熊谷社長)。世界を一変させる技術はいつだって既存の学説を打ち壊して生まれるのだ。

(取材・文/東京支社情報部 相川 泰輝)

会社概要

(株) 新興技術研究所

T D B 企業コード：982077063

法人番号：3010901005300

東京都世田谷区砧6-6-18

電話：03-3417-1836

代表：熊谷 行裕 氏

設立：1963年3月、資本金：1500万円

事業内容：生産自動化設備、教育用実験装置の設計・製造

年売上高：約6億2400万円(2020年8月期)

<http://www.shinko-japan.com/>